

テクノロジー・ショーケース2018開催結果報告書

H30.2.14 つくばサイエンス・アカデミー

- 1 開催期日 平成30年2月8日(木) 9時30分～19時30分
- 2 会場 つくば国際会議場
- 3 参加者数 610名
- 4 内容

(1)ポスター発表 121件 (一般 117件、つくば発注目研究 4件)

(2)企画展示 2件 (つくば市、茨城県)

(3)共催機関広報展示 (18機関)

(4)弁理士会関東支部による「発明無料相談コーナー」の設置

(5)特別講演

テーマ 「ゲノム科学がつむぐ未来」

講師 農研機構 生物機能利用研究部門長 門脇 光一氏

- ・新しいバイオ産業創出に向けて、植物、動物、昆虫分野においてゲノム科学がもたらしたイノベーションと今後の展望について紹介して頂いた。

(6)ミニシンポジウム

「つくば発—ゲノム科学がつむぐ未来」をテーマに、4名の研究者から農林水産、食品、ヘルスケアといった分野における先端的な研究開発、社会実装に向けた取り組みなどをご紹介いただいた後、特別講演の門脇氏も加わっていただき、短い時間ではあったがパネルセッションを行った。

「昆虫ゲノムとゲノム編集：昆虫科学が目指すもの」

京都大学大学院 農学研究科 教授 大門 高明氏

「ゲノム編集技術を使って機能性トマトを作る」

筑波大学 生命環境系 教授 江面 浩氏

「スマートセルによるものづくりを目指して」

産業技術総合研究所 生命工学領域 生物プロセス研究部門長 田村 具博氏

「健康維持・増進に関する食品とは」

農研機構 食品研究部門 食品健康機能研究領域長 山本万里氏

コーディネーター：農研機構生物機能利用研究部門昆虫制御研究領域長 中島 信彦氏

(7)プレゼンテーション賞の表彰

発表内容が優れていると認められた発表者を表彰し、江崎会長から賞状が授与された。

5 結果

- ・発表件数は昨年より12件少ない121件。分野別に見ると、物質材料(34件)、農林水産(13件)、環境(12件)など16分野であった。
- ・発表内容については、「高校生はじめ若い研究者が一般の研究者と混じって議論することは有意義」、「高校生、大学院生、研究者、企業の方それぞれが研究に邁進されている様子が生き生きと伝わり、科学のまちつくばを実感した。今後も続けて欲しい。」といった感想が寄せられた。
- ・特別講演、ミニシンポジウムはゲノムをテーマにしたことから参加者の関心が高く、総体的に異分野交流による知の触発、研究活動の活性化を図ることが出来た。